

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第4回）

（開催日時）平成28年10月28日（金）16：30～17：45

（開催場所）岩手県立大学アイーナキャンパス7階学習室1

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 協議事項等
 - （1）第3回研究会で示された主な御意見について
 - （2）検討項目
 - ア 中間報告書
 - イ 今後のスケジュール
 - （3）その他
- 4 閉 会

出席委員

吉野英岐座長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、山田佳奈委員、若菜千穂委員

1 開 会

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 それでは、ご案内の時間となりましたので、ただいまから第4回「岩手の幸福に関する指標」研究会を開催させていただきます。

私、事務局を担当しております政策地域部政策推進室の臼井でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の研究会でございますけれども、委員総数5名中、今のところ4名でございますが、若菜委員は恐らく45分ぐらいにご到着されるかと思っておりますので、会議を開催させていただきますと思います。なお、広井アドバイザーにつきましては、本日ご欠席ということでございます。

2 挨 拶

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 それでは、開会に当たりまして大平政策地域部長からご挨拶申し上げます。

○大平政策地域部長 第4回「岩手の幸福に関する指標」研究会の開催に当たりましてご挨拶申し上げます。委員の皆様方には大変ご多忙の中、研究会にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

4月28日に開催いたしまして、ちょうど6カ月でございます。6カ月で4回という、こういう研究会にしては濃密なご議論をいただいております。

本日は、後ほどご説明申し上げますが、これまでの研究会のご議論を踏まえ、中間報告ということで取りまとめさせていただきたいと思っております。前回の研究会で委員の皆様からご意見のありました事項についてもご確認いただきまして、その後中間報告案のご意見い

ただき、予定どおりであれば修文を加えまして、11月早いうちにも確定させたいと思っております。

これからは、後でスケジュールの説明をいたしますが、県のほうでのワークショップとか、そちらのほうも県民の方からご意見を伺うなどの手法も考えながら進めまして、29年度、来年度に最終報告を取りまとめたいと思っております。

あと総合計画審議会のほうも11月にございますので、吉野座長にはご出席いただいて、ご説明いただくという段取りも考えてございますので、こちらのほうもあわせてよろしくお願いいたします。

それでは、研究会に当たりまして、皆様方から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。そして、いい報告にまとめたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 それでは、議事に入ります前に資料のご確認をさせていただきます。

本日の資料は、資料1から4となっておりますので、お手元の資料をご確認いただければと思います。資料4が33ページまででございます。もし不足等ございましたら、事務局のほうにお申し付けいただければと思います。

また、お手元の青いファイルにこれまでの研究会の第1回から第3回の研究会資料をご準備しておりますので、必要に応じてご参照いただければと思います。

それでは、協議事項に入りたいと思っております。議事の進行につきましては、吉野座長のほうにお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項等

(1) 第3回研究会で示された主な御意見について

○吉野英岐座長 それでは、第4回目の研究会を始めたいと思っております。手元にある次第のとおり進めていきますので、3の協議事項等の(1)、第3回研究会で示された主な御意見についてということで、まず事務局からご説明をお願いします。

【資料No.1 説明】

○吉野英岐座長 ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。中身の説明が次にあるので、それを聞いてまた質問があればということで進めていきたいと思っております。

(2) 検討項目

ア 中間報告書

○吉野英岐座長 それでは、続きまして、検討項目の中間報告書につきましてご説明をお願いいたします。

【資料No.2、3 説明】

○吉野英岐座長 ありがとうございます。前回は提示していただいたその修正を一部入れていただいたりしながら資料2の概要版、それから資料3の中で中間報告書の案をまと

めていくことまでたどり着きました。きょうは第4回目の委員会ですので、まだご意見があれば伺いたいところですので、皆様からのまずご質問、ご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。気がついた点があればお願いします。

○谷藤邦基委員 気がついた点というのは、細かいことはもう事務局のほうにお伝えしてあるので、それは後で修正していただければという程度のもので。

ちょっと最初に発言するのをためらっていたのは、私自身は中間報告ということもありますので、一つの到達点としてはまずこれでいいのではないかなと思っているので、それを最初に言うのはまずいかなと思っていたところなので、ただ逆に言いますと、あくまでも一つの到達点なので、次どうしていくかということは非常に重要だと思っています。今後の検討課題ということも含めて中間報告には盛られているわけですが、非常によくできている中間報告だと思っていますが、その分どうしても中身が学術用になっている嫌いはあるので、そうするとこれは実務に落としていくということを考えたときには、多くの県民の方に納得感を持って受け入れてもらえるようにしていく仕掛けが必要なのだろうなど。ですから、ワークショップとかいろいろ考えておられるようですけれども、いずれその辺は相当気を使ってやっていただく必要があるかなと思っています。

一つ非常に細かいことを言わせていただくと、資料の2、中間報告の概要のほうですけれども、ほとんどの方は中身を見る前にまずこれで全体像をつかもうとするのだと思うのです。あるいは人によってはこれだけで済ませてしまおうという方もいらっしゃると思うので、そう思って見たときに繰り返し申し上げていますが、ソーシャルキャピタルという言葉がやはり概要版でも何か注釈欲しいかなと思ったところがあります。いずれ世間一般で言う社会資本、社会インフラではないのだというあたりを、ここでもきちっと入っていたほうがいいかなと思ったところはございます。

それからあと、今後の実務化していく中での一つのポイントとして、つながりということが非常に大きな要素としてあるかと思うのですが、それを具体的にどうやるかというのはまさにこれからだと思うのですけれども、そのつながりの反対って何だろうと考えたときに、最初私孤独というのが浮かんだのですけれども、どうも孤独とは違うなど。疎外とか疎外感とかというのが反対側の要素というか、軸になるかなど。だから、反対側の軸から見た場合どうかというのも一つ指標としてはあるのかなと思ったりしました。ちょっとこの辺は漠とした話なのですけれども、検討する際のポイントとなる一つの要素として考えていただければと思ったところであります。

以上でございます。

○吉野英岐座長 ありがとうございます。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 ご指摘ありがとうございます。まず、県民の方々と離れることのないようにという、納得感とかご理解いただくような話というのはしっかりやってまいりたいと思っています。まず、今回試行的にやらせていただくワークショップをその一つの方策とも考えてございますし、また今回いただく中間報告や今後いただく最終報告等を踏まえて、また次期総合計画等を考えていくに当たっても、そういった視

点はしっかり留意してまいりたいというふうに思っております。

また、ソーシャルキャピタルについてでございます。大変恐縮ですが、資料 20 ページのほうで、一応本体のほうでは言及をしておいたのですけれども、概要版でも説明が必要ということでございましたので、いずれわかりにくい用語ということで、ちょっと米か何かで注釈を加えさせていただくように修正をさせていただきたいと思っております。

また、最後のつながりの対義語というか、疎外という観点からの考え方というところでございます。今回つながりをどちらかというところとソーシャルキャピタルとか協調的幸福感という面から捉えておりますけれども、特にもしかしたら客観点指標などを考えるに当たって、そういったご指摘も踏まえて、この項目例は今回お示しをいただいているところでございますが、そのみによらず、また少し検討を進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きご指導いただければと思います。

○吉野英岐座長 それでは、手が挙がらない場合は順番に聞いていきましょう。では、竹村先生、何かお気づきの点があればお願いしたいと思います。

○竹村祥子委員 私も中間報告としてはこれで良いと思っております、今の谷藤委員からのお話の中にももう大分出ておりますので、同じことは言わないことにいたしまして、多分今後新しく入れている、ソーシャルキャピタルのほうはこの後具体的な政策に反映できるような項目とか何か具体的な展開というのがあるかもしれないと思っております。協調的幸福感のほうはむしろ理念に近いようなところもありまして、具体的に何をどう推進するかというところに案が展開するように仕掛けが欲しい感じがしています。

それで、若菜委員のほうから多分ご指摘があった問 7 がかなり充実したのではないかなと思うのですけれども、地域、ご近所という具体的なところが出て、ここは岩手らしいなという感じがします。その前の 27 ページのところの調査項目というのは、余り変えていかないほうがいいのかもしいのですが、新しく出てきた協調的幸福感につながるような協働性としてボランティアとか NPO などを考える場合に、若い人たちがかかわっているようなジャンルももう少し出てくると良いと思っておりますし、親睦目的みたいなものであれば、もう少し楽しみみたいなものを中心とした何かが入ってきても良いと思っております。こういうようなところのアイデアは、むしろワークショップの中で少し掘り起こしてもらえるように仕掛けをしていただけるといいかなと。親世代では思いつかないけれども、これから社会を担っていく人たちの希望につながるような何かというようなもののアイデアをちょっと掘り起こしてほしいと思っております。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 ありがとうございます。まず、協調的幸福感についてどういうふうに落とし込み活用していくかという点でございます。この点については、まだ正直なかなか、新しい概念でもあるので、先生ご指摘のとおりこれは前回の研究会でもご指摘を頂戴しましたけれども、何をイメージしていくのかということについてはまだ明確に定まっているわけではないというところがございましてけれども、今回幸福の要素をさまざま考えていくに当たって、まずこれをどういった結果が出るかということ調査を行いたいというふうに思っておりますので、これを調査の上で委員からご指摘あつ

たような今後の政策のつなげ方というものも意識してまいりたいというふうに思っております。

また、ソーシャルキャピタルを考えると地域の活動にとどまらないさまざまな活動というのの捉え方ということでございますけれども、内閣府との比較というところに重点を置いた形で今の項目は設定してございますが、最小限これは必要なのですけれども、ほかに追加していくことに関しましては調査票のつくりも踏まえつつ、今回 29 年 1 月に反映させていくことは少し難しいかと思うのですけれども、今後のことを考えるに当たっては、ワークショップ等でもちょっと若者も含めた意見も伺いながら、どういう方向が考えられるかについては考えてまいりたいと思います。また、ワークショップの結果についても最終報告に向けて研究会の中でご報告させていただければと思っておりますので、その中でも少し触れさせていただければというふうに思います。

以上でございます。

○吉野英岐座長 ありがとうございます。

では、山田委員から何かあればお願いいたします。

○山田佳奈委員 私のほうからは、主に 2 点でございます。まず、全体としまして委員の先生方おっしゃっていらしたとおり、非常にこの中間報告書の案というのは簡潔、かつ、すきっとわかりやすい形でおまとめいただいたと思っております。ご尽力に感謝申し上げます。

前回私も申し上げました目的のところとかを、こちらの概要についても非常にわかりやすくまとめていただきまして、大変感謝しております。前回いろいろ申しましたが、煎じ詰めれば研究会のスタンスといいますか、県民の皆様はどういうふうに考えていただければいいかということに尽きるころでした。こうした点も明示していただいております。ありがとうございます。

この報告書自体については何かということではございませんのですけれども、もう一つ、アイデアというぐらいで受けとめていただければありがたいのですが、谷藤委員からご指摘いただいた交通利便性のところ、事務局さんにもちょっと申し上げたところございますけれども、実はこれ健康というところとかかわって、時々、食料品アクセスですとか、食品アクセスといったところで、あとは新聞等では買い物弱者ですとかというように言われる点というのが一つの目安というわけではないのですけれども、ひよっとすると見ることでできる数字なのかもしれないなというふうに思っております。

本当にアイデアというだけなのですけれども、農林水産政策研究所の研究資料にも推計としてアクセス問題の状況ということで各県の状況も出されております。岩手県は広い県土ですし、また、生鮮食料品にどういったアクセスできるかといったところというのは、もちろん健康というところと密接にかかわってくるというふうに言われております。かつ、買い物へ行きにくい場合に声をかけられる状況があるかどうかという、これはソーシャルキャピタルにもかかわってくるころとして、今回のことにもかかわるかなということで、これは今後ご検討いただければありがたいかなという点でございます。

谷藤委員さんから先ほど、まずワンクール目が今日で終了ということになって、次は、

まず県民意識調査結果が出て、それを見てからということかなとはもちろん思っておりますけれども、私も今後どういうふうに分析をしていくかなというところで、いろいろと勉強しているところでごさいます、「ソーシャル・キャピタルと格差社会 幸福の計量社会学」など、ひょっとしたらかかわってくるのかなと。あるいは「なぜ北欧の暮らしは世界一幸せなのか?」、これはジャーナリストの方が書いていらっしゃるのですけれども、世界一幸福と言われているデンマークにおいて、デンマークに住んでいる方はどう思っているかという、私も読み始めたばかりなので何とも申し上げようがないのですけれども、ひょっとしたらこういうのも今後の分析のときにヒントになり得るかなということで、きょう一応お持ちしてみましたので、ご関心ある方はご覧いただければというふうに思います。以上です。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 どうもありがとうございます。交通の利便性のところは、どういった形で客観的指標を考えていこうかと悩んでいるところで、今ご紹介いただいたようなものも勉強させていただきながら設定を考えたいと思っております。

また、ご紹介いただいた書籍についても勉強しながら、また次回以降の研究会の議論の参考にさせていただければと思います。どうもありがとうございます。

○吉野英岐座長 では、若菜委員、お願いします。

○若菜千穂委員 今交通の話が出たので、東北運輸局の会議にさっき出たのですけれども、その中で交通政策審議会の専門部会みたいなのがあったのですが、ちょっと指標として出たのが交通のバス停とか駅まで1キロ圏内の人口率みたいな、そういうのが出ていたので、そういうものになるのかなというのは思ったところでした。

本当に幸福をはかるなんて、ちゃんといくか、もう全然だめか、どっちかだろうと最初は思ったのですが、本当にすばらしく端的にまとめられて、もちやもちやした意見もきちっといい形にさせていただいて敬意を表したいと思えます。

1点だけ、今後の課題にも整理させていただいているのですが、主観的幸福がある程度見えてきたところで、やっぱり何だか24、25が、改めて客観的な部分の指標が今度気になるなというところで、これをどう使うのかなというところもあるのですけれども、というのは例えば総合計画とかは恐らくそこはそこでKPIというか、アウトカムだったり、いろんな指標がまた別途設定されると思うのです。では、これはどうなのかなというのもあって、そういうところもあるのですけれども、もうちょっとこれからせっかくつくった幸福度、幸福感をワークショップ等でやっけていこうとしたときに、私が恐らくワークショップを企画すると、ある程度のこういう指標的な分でもその場で数えられる、例えばあなたが知っている人の寿命はどれぐらいですとかとか、その場でみんなで最高齢の人は誰ですかとか、どういう暮らししていましたとか、多分その場で計測できるような指標を出した上で、一回主観的なものをやってみて客観的にその場でみんなで数えられるものを数えてみてもう一回やるとか、多分そういうふうに客観的な指標もある程度使っていくのだろうなと思うと、今は統計的なデータで計測できるもの、もちろんこういうのは必要なのですけれども、ワークショップとかだと、これをさらにブレイクダウンしたというか、その

場でみんなで出せるような指標というのも多分必要になってくるのだろうと、それがこういうのとリンクするとさらにすばらしいなど、いろいろ夢が膨らむという意味です。そういうふうな指標としても客観的な部分で県民に見てもらおう上では、やっぱり必要だなというふうにちょっと思ったのと、そういう視点でも考えていきたいなというふうに思ったというところです。本当にありがとうございました。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 どうもありがとうございます。まず、交通に関することについては、改めて勉強させていただきたいと思います。

また、客観的指標の位置づけで総合計画との関係でございますけれども、先生ご指摘のとおり今回幸福という中で整理をしておりますして、また総合計画は全体の政策体系の中で整理をしていくということでございますので、そのあたりの関連づけについてはしっかりと整理をしてみたいというふうに思います。

また、ワークショップのやり方については、何か決まっているものでもございませんので、また今後試行的にやる中でもいろいろアイデアを実現していきながら、まさに試行的にやってみたいというふうに思っておりますので、またご意見も頂戴できればというふうに思います。

以上でございます。

○吉野英岐座長 はい、どうぞ。もう一つ。

○若菜千穂委員 その客観的な指標のところ、21 ページで、客観的指標に含めるべき項目例という、べきという表現になっているのですけれども、べきでいいのかなというか、べきだともう絶対これではないですか。ちょっと気になったので。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 ここは、価値判断としてそこまで強いというか、先行研究などを考えると、少なくともこういったことは考えられるのではないかとということで、最小限のところという意味でのべきというふうにしたのですが、そこがこれで必要十分みたいな話もありますので、少し表現をやわらかい表現に修正をさせていただきたいと思います。イメージとしては、考えられる項目例とか、そういったような書き方で少し表現を考えさせていただきたいと思います。

○吉野英岐座長 ありがとうございました。

では、私からも少しコメントを申し上げます。最終的には、これは中間報告ということで、広く外に出していくということですので、私たちは今まで当たり前だと思って注釈なしで議論してきたことでも、初めて見る人はこれは何のことなのだろうかというのがもしあるとすれば、例えば第3章でやっている県民意識調査については、最初の委員会では速報の結果を出していただいて、こういう調査であると、毎年やって5,000人を対象にしている大きな調査であるということもわかってしゃべっていたのですけれども、考えてみるとその報告書だけ読むと、ちょっとどういうことなのでしょうかとということが特に書いていなかったのも、少し理解を助けるというか、正確に理解していただくためには、県民意

識調査というのはこういうものですよということも余白か後ろでもいいと思いますが、書いてもいいのかなど。そのほか私たちは今ソーシャルキャピタルもそうなのだけれども、割と当たり前で議論してきたのだけれども、この報告書だけ読んでいる人が見てもわかるようなことに、わからないことがもしあったらいけないので、それは最後チェックしていただいて、これはこういうものですよというようなものも入れたほうがいいかなとちょっと思っ、特に第3章のところは読んでおりました。

結構この第3章がきっかけというか、28年度の県民意識調査の中で幸福度というのは初めて聞いたということでもよろしいのですよね。満足度だと聞いてきたのだけれども、28年度初めて聞いたところ、実はいろいろ分析してみたら、いわゆる満足度とは異なる動き、あるいは関連性がある、それはやっぱり満足度ではない幸福感というものは何かによって決まっているのだろうなど、それをいろんな統計的なものとか駆使しながら、それを明らかにしていってもそこにうまくピンポイントで答えられるような施策が今後とも展開していくことがこれからの県政の課題であるということであれば、やはり県民意識調査に昨年度から初めて幸福感というものを入れたと。その結果、こういう結果が出たので、さらに引き続き少し充実させて、県民意識調査は本来は幸福の調査ではないので、ちょっと間借りをするのですけれども、引き続き幸福に関する項目を少しふやしてそこを充実させたというような注釈も入れてもいいかなと思いました。

14、15 ページなのですが、岩手県の場合は昨年やった主観的幸福感というので幸福だと感じているのが 50.5%ですけども、内閣府はどのようにしてやったか、全国の。何かちょっと急に気になって、岩手県のパーセントは内閣府の、いわゆる全国区の幸福のパーセントと同じぐらいでしたか。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 内閣府は 10 段階でやっておりますので、単純な比較ができないのですが。

○吉野英岐座長 ポジティブなところだけとって見ると、どのぐらいになるのですか。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 何点からをポジティブとするかなのですが、ちょっとそれは今手持ちではないですが。

○吉野英岐座長 参考資料として、内閣府はこういうふう to 幸福感を把握していて、10 段階で一応ポジティブなのはこの辺で、ネガティブなのはこの辺でというふう to、これも参考で結構ですけども、何となく岩手は 50.5 と出すと、では全国どうなのかしらというふう to も思われる方もいるかなと今思っ to 見ていましたので、内閣府はちょっと違っ to ポイントの出し方でこう to いうふう to 出てきていますとかとやると、ああ、なるほどということになるかなと思っ to ました。

15 ページのところ、せっ to かく岩手のバージョンと内閣府のバージョンを棒グラフで、幸福かどう to 判断する際 to 重視する項目の調査結果という to のを出っ to していただいて、大体内閣府がやっ to した調査と岩手県が昨年度行っ to した調査の傾向という to のはほぼ一致しているというふう to 読んでいますので、全体的には内閣府のほう to 反応数が高くて、5 ポイントから

10ポイント程度高いところもあるのです。特に、たまたまちよっとこれを今さっき読んでいたら、やっぱり自由な時間や充実した余暇については内閣府のほうが10ポイントぐらい高いですね。これは、ないからということになるかと思うのですが、岩手はこれはそこまで幸福とつながらないのかもしれませんが、非常に全国的にはここがすごく幸福感につながるものだと見ているのかなと。

一方で岩手のほうが高く出てしまうというか、岩手のほうの県民意識調査だと全国よりも高いというのは、職場の人間関係とか、地域コミュニティとの関係、ちょっと下位のほうにはなるのですが、通常全体的には内閣府のポイント高く出ているのだけれども、この2項目については実は岩手のほうがちょっと高く出ているのかなというふうにこれだけ見ても感じました。それが言いたいのかなというところもあるのですが、むしろ社会関係、人との関係というのは、こういったところからも岩手県民は非常に幸福感とリンクさせる割合が、単純な比較は難しいのですが、全国よりも少し高く出ているということから、今回ソーシャルキャピタルの設問も入れて、そこをもう少し解明していくというような筋書きになるのかなと思いましたので、やっぱり何となく両方並べて見ると、全国と岩手というのはどこがどう同じで、どこがどう違うのかなというのを知りたくなってしまうという人もいらっしゃるかなと思ったので、そこをちょっと報告書の中に簡単に書き加えてもそんな間違いではないと思っていますので、それをさらに解明していくというのが今後の研究会の仕事でもありますし、そのために29年の調査を今度じっくりやっていただいて、その結果が出た上で、さらに最終報告書につなげていくというようなことになっているので、今後の課題ということで第6章に書いてあるので、これを見ていただいて、つまり今回の中間報告というものがさらにこの第6章の1、2、3を踏まえてより充実したというか、政策的にも活用が可能な形の最終報告書にまとめていくということも22ページで少し触れていただくと、今回と変わらないものが次回出るわけではなくて、むしろ最終報告書のほうが結果を反映して出てきますので、あるいはワークショップもやりますので、その点より充実した形で県民の皆様にご提示できるのではないかなと思っておりましたので、次回を楽しみにというようなことになるのですが、それも少し書き加えていただくと、今回の中間報告の位置づけがはっきりするかなと。今回は事実を確認して、違いが見えてきて、それを次の調査できちんと明らかにしつつ、またアンケートだけでわからないことがやっぱりあるので、ワークショップのような形で実際に県民の声を直接伺うというような方法論も入れて、より幸福に肉薄していくというようなストーリーになっていくということが読み取れていただけると、私どもとしてはありがたいかなと思いました。

以上です。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 どうもありがとうございました。まず、県民意識調査の性質というか、こういった調査なのかということについては、これはつけ加えるべきだと思います。つけ加えさせていただきます。ちょっと14ページの中につけるのか、先ほどのご提案のように巻末でつけるのかは検討させていただきますが、いずれ加えさせていただきますと思います。

また、この中で29年の県民意識調査も意識した記述にしてはどうかというご示唆もい

いただきましたので、そこも少し修正を加えたいと思います。

また、内閣府 50.5%のところ、内閣府との比較につきましては、内閣府が比べられる数字なのかどうかというところがございますので、もしそこが可能であれば何らか参考数値としてそこを入れさせていただくような形にさせていただきたいと思います。

また、地域コミュニティが高く出ている、もしくは職場の人間関係が幸福を判断する際に重視する項目で高く出ているというご示唆もございました。これについては、例えば 14 ページの 2 の幸福を判断する際に重視した項目についての四角囲いのところで少し言及をさせていただくということも考えられるかと思っておりますので、順位的には差はないけれども、そこを 1 個 1 個見ていくとというところがございましたので、そこについても検討させていただきたいと思います。

また、22 ページの修正のところでございますが、今後の検討課題として、今回は課題だけを端的に書いてしまっているのですが、その差分の部分がどういうふうに最終報告に生かされていくのかということについて言及すべきというご指摘でございましたので、これについても一番上の部分のところを少しそこを意識した書き方で修正をさせていただきたいと思っております。全て修正の見通しで反映させていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○吉野英岐座長 ありがとうございます。そのほか。

○竹村祥子委員 今吉野先生の話聞いていて、思い出したのですがけれども、16 ページの相関係数ですが、その幸福感の項目は、ここに上がっている項目は主観的幸福感と関連がある、関係が深いとかいうふうに読める項目です、みたいな 1 行くらいは入れたほうがいいと思うのです。1 行でもちょっと入れていただけるといいのかなと思います。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 統計上の関係であるということについて、加えさせていただきます。

○吉野英岐座長 そのほかつけ加えることございますか。よろしいですか。

「なし」の声

○吉野英岐座長 では、今委員のほうからご指摘いただきました微修正というか、文言とかにつきまして修正していただいた上で最終的な中間報告ということで出していただければと思います。

表紙を前回と少し変えていただいて、表紙というか、資料 3 の中間報告のところはかぎ括弧入れていただいて、研究会の中間報告書ということになっていきますので、責任は研究会のメンバーとなりますので、最終的には研究会がきちんとご報告を申し上げるものとして出す義務がございますので、それを事務局が十分支えていただいたという形で世の中に出していければなと思いますので、よろしくお願いたします。

イ 今後のスケジュール

○吉野英岐座長 それでは、今後のスケジュールをお願いしたいと思います。

【資料No. 4 説明】

○吉野英岐座長 ありがとうございます。ご質問があれば、いかがでしょうか。

スケジュールについての進め方についてよろしいですか。中に出てきました11月21日の総合計画審議会のご案内でございますが、中間報告が取りまとまったという前提で私のほうで総合計画審議会にお邪魔いたしまして、何か事前の資料を見ますと全体2時間のうち15分もいただくということで、大変重い役目を引き受けてしまいまして、しかしせっかくこういったお時間もいただけるということで、やはり岩手県の総合計画の中に考え方を取り入れていくというようなことも事務局ともども熱意を持ってやることになっておりますので、ぜひご出席の委員の皆様にご理解をいただけるような形でご説明ができればと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。

第77回というすばらしい回数の総合計画審議会と、今まで4回しか研究会はやっていないのですけれども、相手は77回目ですので、そこでご説明をさせていただくということでございます。

このスケジュールについてよろしければ、一旦スケジュールの件は終わりにして、では追加のコメントを。

○若菜千穂委員 いいかなと思ったのですけれども、ちょっとやっぱり気になりますので、アンケートのほうなのですけれども、27ページの質問6なのですけれども、ここで地域について米印が入っていて、小中学校から市区町村と書いてあるのですけれども、これ内容を見るとスポーツとかボランティアなのですけれども、例えば②番のスポーツ、趣味、娯楽は、私の知っている人でも花巻に住んでいても盛岡の劇団に入っているとか、あとボランティアは特に全県から多分岩泉に行ってボランティアするとかというのがあるので、それは落とすのねというふうに見えてしまうのですけれども、だから恐らくこの地域の米印の次の問い7でつけるべきことであって、問い6、あえてここに入れたならいいのですけれども、さっき言ったような市町村をまたぐようなボランティアなどですけれども、そういう意図でしたか。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 確かにほかの項目がいろいろある中で、地域をまず最初という形でやっておいたというところはあるのですが、これ自体は一応内閣府の調査との比較という観点で、最初にこれについて地域の定義をした上で問いを立てているということがあったので、それと並びをとっているというのが今回の考え方ではございます。

○若菜千穂委員 では、あくまでも市町村の中でやっているという質問をするというのと、私の場合は、あれ、岩泉にこの間行ったのは入らないのねとするかなとは思っているのですけれども。ただ、ここの中では必要だと思うのです。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 内閣府との比較を考えたのですけれども、委員ご指摘のとおり、確かにちょっと範囲的に地縁的な活動なんていうのはもうほぼ明確に自動的な感じもいたしますし、スポーツ、趣味、娯楽活動といった中で、余り最初の問いとして、問い自体が地域という設問で問うておりますので、これは少し落とす方向で検討させていただきます。ただ、申し上げたとおり問7のほうで逆に追加をする、地域への愛着といったところの愛着の範囲を確定する意味では、地域活動とかという観点ではあるかと思っておりますので、ちょっとほかの内閣府の調査をもう少し精査いたしまして、ただ性質上落とす方向で少し考えさせていただきたいと思っております。また、これは修正をさせていただきます。

○吉野英岐座長 確かにどの市町村においてもフルセットで全ての活動を持っていれば、そこでそれをやっていけるのですが、必ずしもそうでもないもので、むしろ大きい都市にそういったものが集中していて、そこに通って頑張っている人というのももちろん岩手の場合は結構いらっしゃると思いますので、岩手県民が答えるときに違和感があるようであればちょっと答えづらいということもあって、それは人口の多い都市とはまた別なので、そこはまたご検討いただけるということですので、修正するなりして委員のご質問に答えられるようお願いしたいと思います。

よろしいですか。

「なし」の声

○吉野英岐座長 それでは、幾つかの修正事項を入れて中間報告書を直していただくということで、一旦この件については閉じたいと思っております。

(3) その他

○吉野英岐座長 それでは、その他についてですけれども、何か事務局からございますか。

○臼井政策地域部政策推進室評価課長 特にございません。

○吉野英岐座長 委員の皆様から、今のうちに聞いたほうがいいのかということはありませんか。よろしいですか。

本当に全般的には中間報告については委員の皆様のご活発なご質疑と事務局の本当に真摯な取りまとめの力によって、自画自賛してはいけませんけれども、まずまずいい水準のものができているのではないかなと思っております。でも、これはまだ初めの一歩でございまして、この方向に基づいてこれから実際調査をして、そしてそれを政策に乗せていくというのが本当のこれからの成果ですので、まさに総合計画審議会等々のところでもご理解をいただけるところまで何とか持って行って、県、そしてこういったことについて関心を喚起するというか、そんなことは人それぞれだという、幸福というのは難しい概念ではあるのですけれども、もしかするとある意味共通の関心を持って皆さんで取り組んでいただけるような概念あるいは考え方になるということも期待してやっているわけですので

で、ぜひ担当の皆様と私どもで力を合わせて、これをより理解を深めていけるような形で今後の研究会にもつなげていきたいと思えます。

本当に委員の皆様、ありがとうございました。また、事務局の皆様、大変ご尽力いただきまして、ありがとうございました。私のほうからは以上でございます。

○**臼井政策地域部政策推進室評価課長** それでは、今後の日程でございますけれども、今回中間報告書について、おおむね方向性はということでございましたが、若干修正点についてのご指摘をいただきましたので、本日いただいた修正点につきまして事務局のほうで修正をさせていただきます、また委員の皆様にも送らせていただくような形とさせていただきます。と思えます。

○**吉野英岐座長** 修正につきましては、最終的には事務局と委員長にお任せいただければと思えますので、よろしいでしょうか。

「はい」の声

○**吉野英岐座長** ありがとうございます。

○**臼井政策地域部政策推進室評価課長** ありがとうございます。それでは、私どものほうで修正をさせていただいたもので、また委員の皆様にも送らせていただきながら調整させていただきます。11月21日の総合計画審議会のご報告ということを含めると、大変恐縮ではございますが、ちょっと短い期間の中でのご相談とかご確認のお願いすることもあるかと思えます。今考えておりますのは、大体来週、11月の来週中ぐらいには固めて、またできれば公表までやっていくということを考えておりますので、そこは調整状況を踏まえながらまたご相談させていただければと思っております。

それでは、4回にわたりまして大変活発にご議論いただきまして、まことにありがとうございました。引き続き最終報告に向けてご指導いただければと思っております。

4 閉 会

○**臼井政策地域部政策推進室評価課長** 以上をもちまして本日の研究会を終了させていただきます。委員の皆様、お忙しい中ご出席いただき、まことにありがとうございました。